

令和5年度 学校関係者評価委員会報告

1. 日 時：令和6年3月15日（金）14：00～14：55

2. 場 所：別府医療センター附属大分中央看護学校 会議室

3. 学校関係者評価委員

- ・国立病院機構別府医療センター 副院長
- ・国立病院機構西別府病院 看護部長
- ・学校法人後藤学園 藤華医療技術専門学校 学校長
- ・同窓会会長（別府大学看護学部設置準備室 教授）

4. 議事

- 1) 令和5年度学校評価（資料1、参考資料、PPT）
 - （1）令和5年度 教員による自己点検・自己評価
 - （2）令和5年度 学生満足度評価
- 2) 意見交換

5. 学校関係者による主な意見

1) 令和5年度教員による学校評価（自己点検自己評価）最終評価について

カテゴリー		評価・意見など
全体結果		○自己点検自己評価の評価基準について ⇒（意見） ・評価が低い内容「改善すべき点：0点」があった場合には、それらの意見を取り入れて改善していくかが重要である。 （改善すべき点：0の評価だった項目はない）
Ⅲ	教育課程経営	○「教育理念・教育目的の達成に向けた一貫した活動」について ⇒（意見） ・「教員全体として一貫した活動をするには課題がある」と記載部分について、学生の満足度評価でも、教員間の連携に関する意見があり、これらは関係している。「個人の努力」もだが、基本的には「体制」として整える必要がある。
Ⅳ	教授・学習・評価過程	○実習教育について、別府医療と臨床判断能力育成の学習会を行う等、臨床と連携して取り組んでいるようだが、「教授・学習・評価過程」の評価は、昨年度の最終評価より0.1ポイント低下している。 →学校より ・実習指導体制を強化することを目的に、前年度よりも一歩先に進めた学習会を行い、実習指導者も実践報告を行った。一方で、日々の実習指導体制に関しては実習科目評価で課題となる意見が聞かれている。 ・講義・演習において、看護展開の中で臨床判断に関して強化した。学生の実習での臨床判断の状況については、看護研究で結果を分析している。「学生は一生懸命対象理解や実践を行っているが、指導者の意見をうまく取り入れることが困難で、3週間の実習でなんとか目標に達成している」という結果が出ている。今後も研究において継続したデータ収集を行い、教育への示唆を得たい。 ⇒（意見） ・実習指導者に関する評価の記載はあるが、教員自身の評価について、自己分析を行い振り返り、今後どう取り組むかを検討する必要がある。 ○講義・演習教育における＜思考力・判断力を強化するために、自己学習を基盤とした授業の展開＞について ⇒（意見） ・教育を提供する側として質を担保するのは重要であり、自己学習を基盤にすることはできない。自己学習という不確定なものは基盤にはならず、提供する教育を基盤としないといけない。このような意味で記載されているかもしれないが、誤解を与える表現となっている。

		○ICT を活用した授業設計の部分に、＜ミッションタウン＞との記載について ⇒（意見） ・福岡女学院大学の「ミッションタウン」であれば、固有名詞であるため使用しない方がよい。もし使用するのであれば、「 」をつけるようにしたほうがよい。
VII	卒業・就職・進学	○卒業時の看護技術到達度について →学校より ・「経験したかどうか」は把握できているが、到達度の詳細までは把握できていない。卒業前技術演習を実施しているが、「チェック」をするだけで終わっており、到達できていない部分をできるようにしていかないといけない。 ⇒（意見） ・教員として、これらの評価の中身をしっかり分析して、教育に活かしていく必要がある。次年度の課題として取り組んでほしい。

2) 令和5年度 学生満足度評価

カテゴリー		評価・意見など
	学生満足度評価最終	○満足度評価の評価基準について ⇒（意見） 「まったく思わない：1」「あまり思わない：2」があった場合には、それらの意見を取り入れて改善していくかが重要である。 （「まったく思わない：1」の評価だった項目はないが、「あまり思わない：2」は散見された）
II	教育活動	○実習後の看護への関心について（自由記載） ⇒（意見） ・「実習は記録の量が多いだけで行える看護が少なかった」という意見について、やれることがやれなくて、学習意欲の低下になったのか、学生がどのようなイメージで意見したのか。またこれを改善していくにはどうしたらよいか、検討する必要がある。 →学校より ・卒業時の到達目標に応じて、学生が経験できる技術については実施させている。何か技術の実施で制限をかけているという状況ではない。 ・実習科目によっては、ロイの看護過程を使ってフル展開するため、実習記録の量が多く、そちらにパワーを費やしている状況からこのような記載になった可能性もある。実習記録については、アセスメント用紙を何枚も記載して対象理解させていたものを、1枚のシートで対象理解ができるような記録用紙に変更するなど、次年度の実習要項に反映させている。
	その他	○学生の満足度評価の自由記載について ⇒（意見） ・＜肯定的な意見＞＜否定的な意見＞とあるが、学生の意見の真実であり、教員側が評価してしまっているわけではない。学生が＜否定的＞と言っているわけではなく、この意見を真摯に受け止めることが重要である。学生の厳しい意見をどう真摯に受け止めるか、どのように前向きに検討するかが重要である。